

# 100th anniversary

2024

## 6.12<sup>水</sup> — 7.22<sup>月</sup>

開館時間 午前9時～午後5時(ただし、入館は午後4時30分まで)

休館日 火曜日

入館料 大人300円(団体250円) / 小中学生150円(団体130円)

※団体は20名以上。長浜市・米原市の小・中学生は無料。

※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳等をお持ちの方及びその付添いの方1名は無料。(ただし、証明となる手帳等の提示が必要)

主催:長浜市 協力:芳洲会

### 高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室

TAKATSUKI KANNON NO SATO HISTORY FOLKLORE MUSEUM

〒529-0233 滋賀県長浜市高月町渡岸寺 229

# 雨森芳洲顕彰の

History of Amenomori Hoshu Award activities and Hoshu's thoughts.

# 歩みと

# 芳洲のくまろ

雨森芳洲関係資料受贈100年記念

### 芳洲会設立趣意書

雨森芳洲先生は、普く世に識らる、如く、本郡雨森に生れ、長じて木門に學び後對馬侯に仕ふ。人格者として、尊王家として將又政治家として、著述家として、天下後世其遺徳を仰がざるなし。大正十三年二月十一日、從四位を贈らせ給ふ豈偶然ならんや。而して今日、先生十代の正裔は、發祥地たる本郡北富永雨森一六一番地に木籍を置き、系譜、肖像を始め遺書、藏し、雨森邸址亦此處に現存す、嗚呼、先生八十八年の郷を顧るの暇なく、彼の一孤島に終始せられたりと雖長へに我が江北の天に在りて謂ふべし。於是乎、先顯彰し斯道の興隆を圖り、以て國民精神の作興に裨補地方年來の企圖なりしが、今や天恩の渥きに感激し且現下社會の情勢に鑑み、舉郡協心の事業として、芳洲會を設立せり、同感の士莫くば奮て目的の達成に翼賛せられん事を。

大正十三年三月 芳洲會

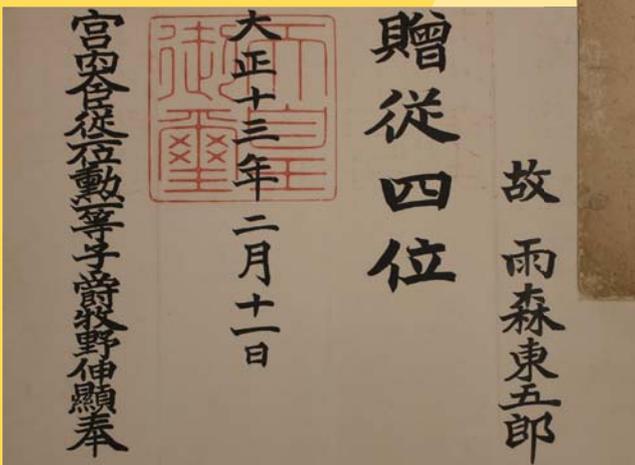
### 會則要項

- 一、目的 贈從四位芳洲雨森東五郎先生ノ遺徳ヲ顯彰スルニ在リ
  - 二、事業
    - イ、芳洲書院ノ設立
    - ロ、書庫ノ建
    - ハ、記念館ノ建設
    - ニ、遺品遺書ノ蒐
    - ホ、祠堂ノ修造
    - ヘ、碑石ノ建
    - ト、講學所ノ設備
    - チ、其他風教興隆
  - 三、芳洲書院ノ維持方法制定
  - 四、遺書ノ刊行
  - 五、其他必要ナル事項
  - 三、其他
- 趣旨ニ賛成スルモノヲ會員トシ事務所ヲ滋賀縣伊香郡役所内ニ置ク、經費ハ會員ノ募金ヲ以テ支辨ス

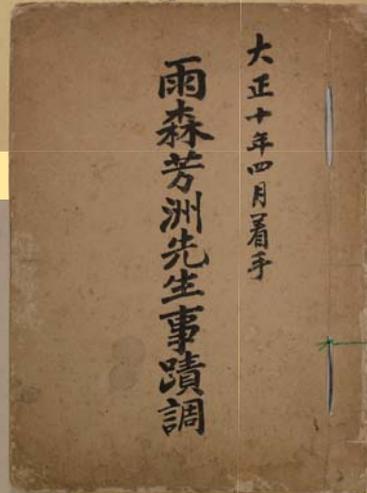
### 雨森芳洲先生小傳

芳洲先生、名は東五郎芳洲はその號なり、其先嫡姓に出づ、寛文九年五月十七日近江國伊香郡雨森村に生る。甫、十二歳の頃、父は醫を學ばんことを期し、時に伊勢の名醫高嶽といふもの、人に謂つて曰く、書を學べば紙費久、醫を學べば人費多、此道果に然りと、先生亦はあり、之れを聽いて以爲く、人其費すべけんやと、乃ち醫を學ぶの志を絶つ、年十八の時、江戸に赴き、木下順庵に從つて學ぶ、人となり風神秀敏、雲雪の弟と稱ひに及んで、稱多通、順庵乃ち稱して後進の領袖となす、對馬侯人物を木門に求むるに當りて、稱多の薦むる所となる、是に於てか對馬侯に仕へ、藩の友教を蒙り、朝鮮使交の任に興り、名聲の内外に聞ゆ。藍圖尙書は木門の後秀なり、皆て先生を論じて曰く、予謙友に於て其教長する所、氏に如くはなし、先生の時人は推せられしこと此の如し、先生白石と共に木門に出でて、相識ること三十年、白石、藩府の要路に在りて朝鮮の使を對し、藩府を稱して日本國王なりといひし時、先生亦は白石に應り、其事も論じ、横説縦説、復た餘力を遺さず、諸家人物志に先生の人となりを記して、性質温厚にして、人々を厚く、と云へども亦くも大義名分の關する所に至りては、侃々訶々之を争ひて寸毫も假借する所なきなり實に名分を知るの士といふべし、(定稿) 大正十三年二月十一日 實曆五年正月六日を以て歿す 享年八十八 亦願多し實曆五年正月六日を以て歿す 享年八十八 大正十三年二月十一日從四位を贈らる。

▲芳洲会設立趣意書 (大正13年)



▲位記



▲雨森芳洲先生事蹟調 (大正10年)



雨森芳洲肖像

# 100th anniversary

## 彰顯芳洲森雨の 歩みと芳洲のころ

雨森芳洲関係資料受贈100年記念

2024 6.12<sup>本</sup> — 7.22<sup>月</sup>

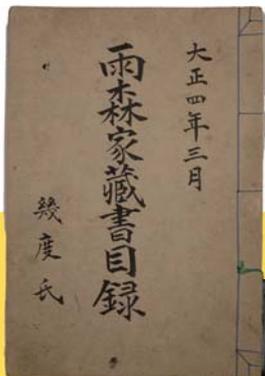
主催:長浜市 協力:芳洲会

高月観音の里歴史民俗資料館  
TAKATSUKI KANNON NO SATO HISTORY FOLKLORE MUSEUM

雨森芳洲(1668～1755)は、雨森村(長浜市高月町雨森)出身と伝えられる江戸中期の儒学者で、朝鮮との交流で「誠意と信義の交わり」を主張・実践した人物です。その子孫は代々対馬藩に仕えましたが、明治維新後に芳洲の関係資料とともに東京に移り住みました。

今からちょうど100年前の大正13年(1924)、北近江に雨森芳洲の顕彰会「芳洲会」が結成されると、芳洲の子孫は雨森芳洲関係資料一式を芳洲会に寄贈しました。同じ年、芳洲は政府から「従四位」の位階が追贈されています。

この展示では、それから一世紀の間、芳洲の啓発普及に努めてきた芳洲会をはじめとする活動の歩みや、芳洲資料の評価と普及の変遷を概観することによって、将来へ向けた先人顕彰のありようの方策を探ります。



雨森家藏書目録



▲雨森芳洲庵(長浜市高月町雨森)

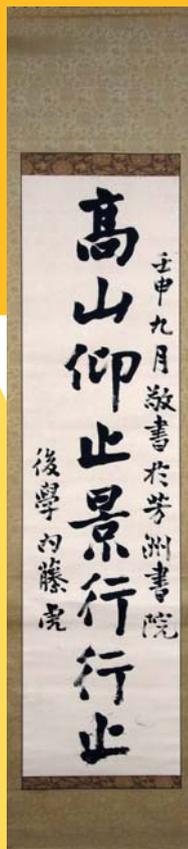
誠意と信義の交わり



▲たはれくさ(富永実業補習学校旧蔵)



▲「治要管見」解説書



内藤湖南書

### 展示説明会

日時:令和6年(2024)6月30日(日)午後1時30分から

会場:高月観音の里歴史民俗資料館 2階展示室

※展示説明会には入館料が必要です。  
(観音の里資料館友の会会員は入館無料)



Access

JR 高月駅から徒歩 8 分  
北陸自動車道 木之本 IC から 10 分 / 小谷城 SIC から 7 分  
〒529-0233 滋賀県長浜市高月町渡岸寺 229  
TEL 0749-85-2273  
<https://www.city.nagahama.lg.jp/section/takatsukirekimin/>